

# 同窓生

齋藤沙音 (Ariel)  
丸山プリミア G11

高1の夏、私は1人でタンザニアに行くという大冒険をしました。ポケットWi-Fiも繋がらない場所にたった1人で飛行機を乗り継いで行くのはドキドキでしたが、明泉で培った英語力が私を後押ししてくれました。

タンザニアでは貧困地域で薬を配ったり、現地の病院で医療補助をしたりなどの医療ボランティアを行いました。また、帝王切開を見学したり、マラリアなどの病気について勉強したりもしました。日本人は私1人でしたが、英語で困ったことは何一つなく充実した時間を過ごせました。毎日が驚きの連続でしたが、一番衝撃を受けたのは、私が手を洗った後の細菌だらけになった茶色い水を現地の子どもたちが飲んだことです。薬を配るよりも、そもそも彼らの衛生概念を変えることが重要ではないか？ そう考えた私は、ボランティア仲間と声をかけマサイ族の子どもたちに公衆衛生教育を行いました。この経験を帰国後に第44回高校生英語弁論大会でスピーチし、全国1位相当の外務大臣賞を受賞させていただきました。

ここまでの話を聞いて皆さんは私が元々積極的で活発な人間だと思ったのではないのでしょうか？ 実際は真逆です。そもそも弁論大会に参加するようになったきっかけは、内向的な私の性格を心配した母が、人前で話すことに慣れさせようとして申し込んだことでした。小学生の頃はとても嫌でしたが、毎日練習を続けることでだんだん堂々と話せるよう



マサイ族の子どもたちに手洗い指導



英語とともに長く続けてきた普通道でも入賞  
第72回全国公募小中高児童生徒徒川開演進  
展文部科学大臣賞 (全国1位)



(左) 医療ボランティアとして血圧測定  
(右) 病院で指導してくれた先生と



現地で出会ったボランティアの仲間

## MeySen Through British Eyes

ハイス쿨のヨーロッパ研修旅行でホストファミリーをしてくださったアイゼンマン家から、息子のハリ君 (17歳) が日本に来られました。約1週間の仙台滞在中、ホームステイしながら明泉でボランティア活動もしてくれました。

明泉ハイス쿨では、2002年から高校2年生が研修でイギリス、フランス、ドイツのヨーロッパ3ヶ国を訪れています。この研修旅行はヨーロッパの文化に触れ学校体験をすることはもちろんですが、ロンドン南西の街Woking (ウォキング) とドイツ南部の街Weinstadt (ヴァインシュタット) に住むホストファミリーとの交流が大きな支えとなっているといっても過言ではありません。ハリ君の家はWokingの南、Guilford (ギルフォード) にあり、明泉生を1度受け入れて、地元の高校に通わせてくれました。

今回、ハリ君は [the Duke of Edinburgh (以下、DofE)] という国際的な青少年向けプログラムで日本を訪れました。ボランティアやスキル習得など優れた活動をした参加者には賞 (Award) が贈られ、大学受験に生かすことができます。ハリ君もGold Awardを目指し、仙台に滞在しながらボランティア活動をしたいと問い合わせてきてくれました。

イギリスのホストファミリーに明泉から恩返し「Returning A Favor」をする機会になればとステイ先を募ったところ、高森プリミアG10の遠藤賢介君 (Sid) とご家族がすぐさま承諾してくださり、ハリ君にはもちろん、明泉の先生や園児・生徒にとって素晴らしい交流の機会が実現しました。



留学主宰  
ピーター

## From Woking to Working

### Message from Harry

10月26日に仙台に到着し、遠藤家の皆さんに会いました。その後、家族とSidの友達も一緒に、お好み焼き屋に出かけました。みんな優しく親切にしてくれて、料理もとてもおいしかったです。滞在中は、外食したり遠藤ファミリーの家で心に残る食事しました。

明泉では、プリミアの子どもたちと一緒にスパイダーダーを楽しんだり、幼稚園のたき火の準備など仕事体験もできて最高でした。先生や生徒もすばらしく、温かく迎えてくれたことが嬉しかったです。一生忘れられない思い出になりました。

ハリ君 アイゼンマン



## Bible verse

なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。聖書はこう言っています。  
「この方に信頼する者は、だれも失望させられることがない。」「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです。  
ローマ人への手紙 10章9-11,13節

聖書

## 私たちの心を守る聖書の教え

### 3 すべての人は価値のあるもの

このシリーズでは、私たちの心を守ってくれる聖書の教えをお話しています。今回は、人間の価値を聖書から確かめたいと思います。人生の目的や自分の価値に確信が持たないとき、私たちは生きる力を失ったり困難にくじけたりしまったりするからです。

#### 神様の最高傑作

多くの人は自分の命の意義や人生の目的について疑問を持つことがあるようです。また、自分の価値を疑う人もいます。聖書には、天の神様が、宇宙とすべての動植物を創造してから最後に人間をご自分に似ているものとして造られたとあります。人間は、神様が創造されたものの中で最高の傑作品なのです。人間は、神様と会話をし、神様をあがめ礼拝するものとして造られました。また、地球の動植物を治め監督する役割も与えられました。

神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。 <創世記 1: 26-27>

#### 命の尊さ

人はまた、男と女に創造されたとおりです。男と女、それぞれの役割がありますが、神様の前では男女は等しく価値のあるものです。2人が愛し合い結婚を通して結ばれ、子どもが誕生することに祝福と幸せがあります。男女の結婚は、神様と神を愛する人の関係を表すひな形でもと聖書にあります。

あなたこそ 私の内臓を造り  
母の胎の中で私を組み立てられた方です。  
あなたの目は胎児の私を見られ  
あなたの書物にすべてが記されました。  
私のために作られた日々が  
しかも その一日もないうちに。  
<詩篇 139: 13, 16>

この箇所は、神がどのようにして人を造られるかを語っています。妊娠のときから新しい命が始ま

ていること、一人一人が神様に特別にデザインされていて、その子にしかない特別でユニークな賜物が与えられていること、出産前から神様がその人の生涯について知っておられることが記されています。

#### 人間の背きと神の愛

残念なことに、すばらしいものとして造られた私たちの最初の先祖が神様に反逆し罪を犯したことにより、全人類に罪が入り込み、平和で喜びに満ちていたこの世界が呪われてしまいました。人間はみな生まれつき罪があり、神様と敵対関係にあります。その罪を悔い改めて神様と仲直りをしなければ、神様を喜ばせることはできませんし、自分も本当の意味で幸せになれません。

神様は、私たちがそのみじめな状態から救い出すためにご自分のひとり子をこの世界に遣わしました。神様の子どもが人間の赤ん坊として処女であったマリヤから生まれ、やがて大人になり人々を教え、多くの奇跡を行い、そして裏切られ、十字架にかかって死にました。人間となった罪のない神の子が私たちの罪をすべて負って、私たちの身代わりとして罪の代価を払ってくれたのです。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。  
<ヨハネ 3: 16-17>

神様に自分の罪を告白し、悔い改めてイエス様の十字架の救いを受け入れる人は、無罪とみなされ、永遠の命が与えられるのです。なんとすばらしい神様の愛とご計画でしょう。



園長  
ダニエル・ファンガー

#### 人間の基準と神様の基準

みなさんもそういう経験があるかもしれませんが、人はよく他人と自分を比較して優越感を持ったり劣等感を持ったりします。しかし、神様の前では、人間はみな等しく価値のあるものです。神様の評価基準は、人間の基準とまったく違うものです。人間的にあげられ高く評価されていても神様にとっては意味のないことです。神様は、人の外見よりも心を見ておられ、へりくだった柔和な心を喜ばれます。イエス様の時代にひとりの聖書学者がイエス様に、「神様の戒めで最も大事なは何ですか？」と尋ねました。イエス様はこうに答えています。

「あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」これが、重要な第一の戒めです。「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という第二の戒めも、それと同じように重要です。この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。」  
<マタイ 22: 37-40>

神様を心から愛して、周りの人を自分同様に愛すること、この2つを守れば、神様の戒めをすべて守ることになるとイエス様は言いました。神様を「心から愛する」というのは、まずは自分の罪深さ、愚かさを認識し、神様がどんなに自分を愛してくださったのかを理解することから始まります。そして、神様を愛すれば愛するほど、他人も愛することができるようになります。

皆さんも、自分は神様のかたちに造られたすばらしい貴重な命であることを知るとともに、神様に対する罪を認め、悔い改めて神様の愛と救いに頼ってください。自己卑下も自慢もせず、神様の愛と憐れみに頼り、やがて天国に入ることを確信しながら、心に平安と喜びを持って人生の道を歩んでください。

## 行事をまえる同窓生 ~ LITトレーナー ~

2023年度から始まった「Leaders In Training」インターンプログラム。この2年間で計60人の中高生がボランティアとして園の行事を支えてくれました。以前から明泉でボランティアをしていた同窓生が大学生になり、今も行事に来て先輩としてLITに教習・準備のやり方やコツを教えてくださいました。

今後、LITメンバーが明泉を卒業してからも後輩LITをサポートするトレーナーとなり、リーダーシップのバトンを受け継いでいってくれることを心から期待します。



先輩2人(写真左)がLIT(写真右)と一緒にフレンドのクリスマスパーティーを準備



2024年度のLITメンバー



「読む」とつながる。「読む」とひろがる。

発行日: 2025年1月17日

発行: 宮城明泉学園 www.meysen.ac.jp

Friends Newsletterは年に4回、カンガルークラブからハイス쿨、同窓生などに関するニュースをお届けする学園ニュースレターで、明泉サイトでも公開しています。



本誌で引用している聖書は、以下の聖書によります。聖書 新改訂 © 新日本聖書刊行会

# Friends Winter 2025

「読む」とつながる。「読む」とひろがる。

MeySen Newsletter  
No. 209



